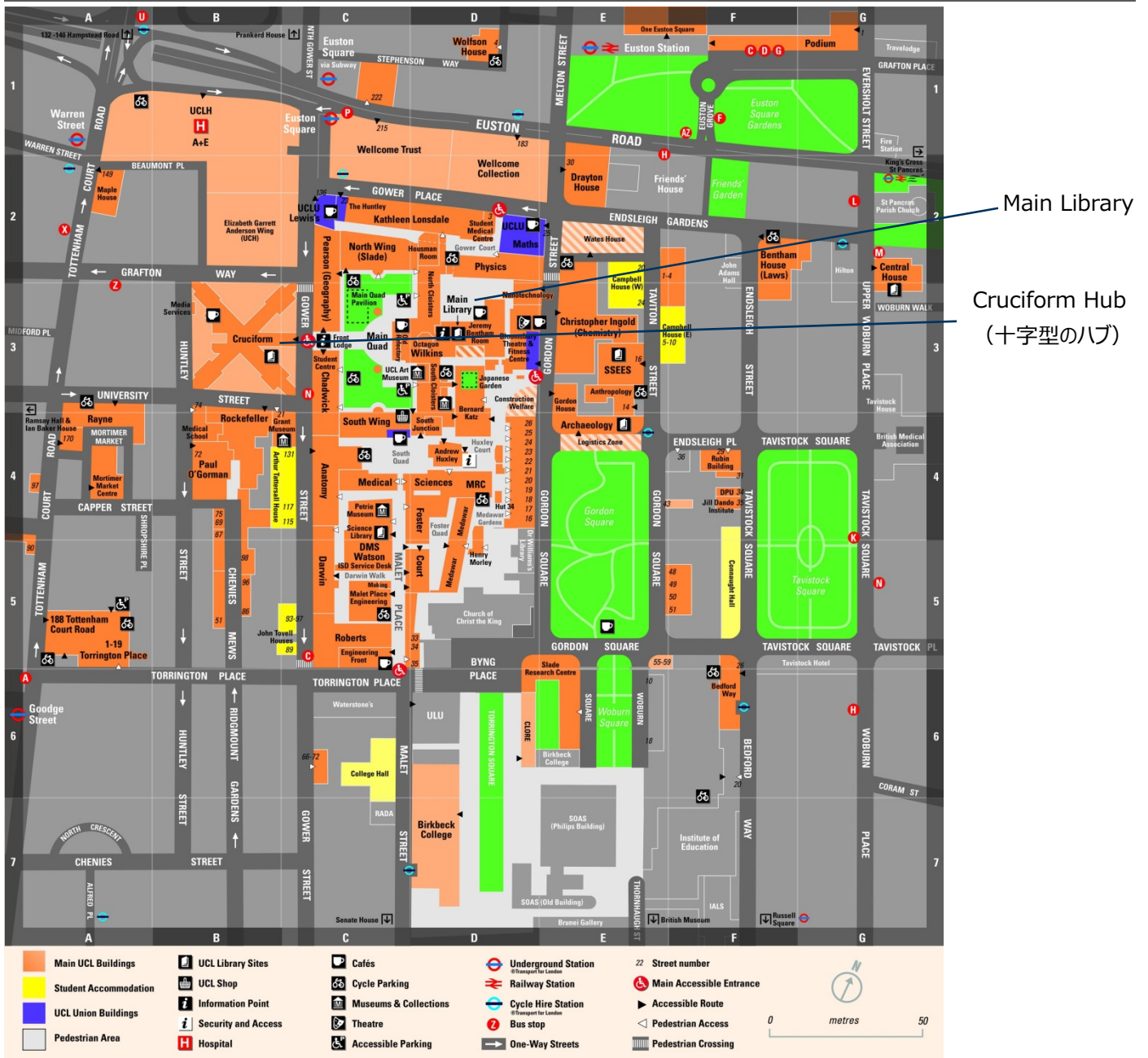


University College London ユニバーシティカレッジロンドン

配置図



<http://www.ucl.ac.uk/maps/downloads/ucl-bloomsbury-campus-map-2014.jpeg>
(2016年3月現在閲覧可能)

平面図 (Cruciform Hub)



<http://www.ucl.ac.uk/library/docs/cruciform-floorplan>
(2016年3月現在閲覧可能)

整備概要

施設名称	Cruciform Hub
設置年度 (工期)	2014年開設 (2013年6月~2014年夏)
整備手法	改修
階数	9階建て地下1階
のべ床面積	13,965 m ² (建物全体)
設計	Burwell Deakins Architects

整備内容

・整備のポイント

整備の基本コンセプト

- ・ブルームズベリーキャンパスの医学部に親しみやすく活気にあふれた拠点を創出
- ・最先端 ICT 機器導入
- ・既存の施設（図書館、PC 教室、セミナールーム）機能を統合
- ・医学部の歴史を継承する展示・内装

図書館設備

- ・24 時間オープンサービスのデスク（レファレンス、ICT サポート）
- ・5 つのグループワークスペース（4 名から 14 名利用）
- ・グループワークまたはインフォーマルディスカッションエリア（52 名まで）
- ・個人学修エリア（113 名～181 名まで）
- ・貸し出し用図書
- ・プリントステーション

PC クラスタ

- ・50 名用クラスタ（PC 共用の場合 100 名対応）
- ・18 名用クラスタ（同上 36 名対応）

教室・セミナー室

- ・3 つの 18 人用ルーム

・運営・管理

最低でも 2 名のスタッフが 24 時間週 7 日サービスデスクで対応しており、図書館サービスと ICT サポート、スペース管理を行う。図書館スタッフがマルチタスクをこなすために、スタッフ研修に力をいれている。

利用ルールとしては、15 分以上荷物を置いたまま離席しないこと、共用 PC のデスクトップには離席時に作業記録を残さないことなどがある。1 日貸し出し用の PC は館外にも持ち出し可能だが、破損した場合は罰金が課せられる。

計画・設計プロセス

・整備の背景

UCL では 2013 年以降、学修スペースの改善を施設整備の重要課題として捉えており、図書館を中心として学修スペースの整備計画をすすめている。

Cruciform Hub は 1999 年以來図書館、コンピューター室、セミナールームが分離してあった場所に、新たな複合的学修施設として誕生した。1906 年に建てられ 90 年以上大学病院として使われてきた十字型ビルは建築遺産であると同時に、新たな学修拠点のモデルとして知られることになった。

施設計画には、カリキュラムへの対応だけでなく、学生意見の集約により今日の学生の学修スタイルが反映されている。リラックスした協調学修、静かに一人で集中できる学修の両方に適した場所が学生からの要求として出された。ハブの計画には当初から全ての利害関係者が招かれ、プロジェクトでは 3 年間を通じて学生組織が参画した。1,000 以上の学部生、院生が意見を寄せ、計画・設計プロセスの全ての段階で計り知れない役割を果たした。その結果として十字型ビルに対する学内のアイデンティティと所有意識は強いものになったといえる。

・整備の評価

2 年に 1 回実施している図書館のアンケートで、Cruciform Hub は利用者から高い評価を得ていることが分かっている。現代的な ICT 設備やサービスデスクを 24 時間利用できること、飲食や会話も可能なリラックスして過ごせるスペースから静かに作業に集中できるスペースまで多様なニーズに応えていることがその理由としてあがっている。本格稼働の前に、パイロット期間を設け、什器や備品等についての意見を学生から募った。パイロット期間の管理とそのフィードバックは設計事務所がとりまとめた行った。

・今後の展望

- ・学修スペースの効率的な運用のため、大学内の全学修スペースの利用申請を共通 web サイトで管理することを計画している。
- ・学修スペース整備には、今後も学生のニーズをできるだけ計画に反映するよう取り組んでいく。Cruciform Hub の成功に習い、今後の図書館改修整備にも、初期段階から利用者である学生やスタッフと共に計画を進め、サービスと施設に関するフィードバックを積極的にすすめる。

その他見学施設

・Main Library

ナショナルギャラリーの設計者ウィリアム・ウィルキンスが設計。内装はジョン・ラックス。1920 年代に完成。

- ・1994 年セキュリティシステムを導入
- ・内装に建学の精神を反映（肖像画等）
- ・歴史的建造物であるため、改修制限あり
- ・学内のライブラリーの整備内容に統一性がないことが課題
- ・学内資料の電子化に力を注いでいて、論文は学外からもアクセスできる
- ・学内のコレクションを展示しており、デジタルアーカイブとしてアクセシビリティ向上
- ・廊下などのオープンスペースを什器・無線 LAN/電源整備により学修スペースとして活用

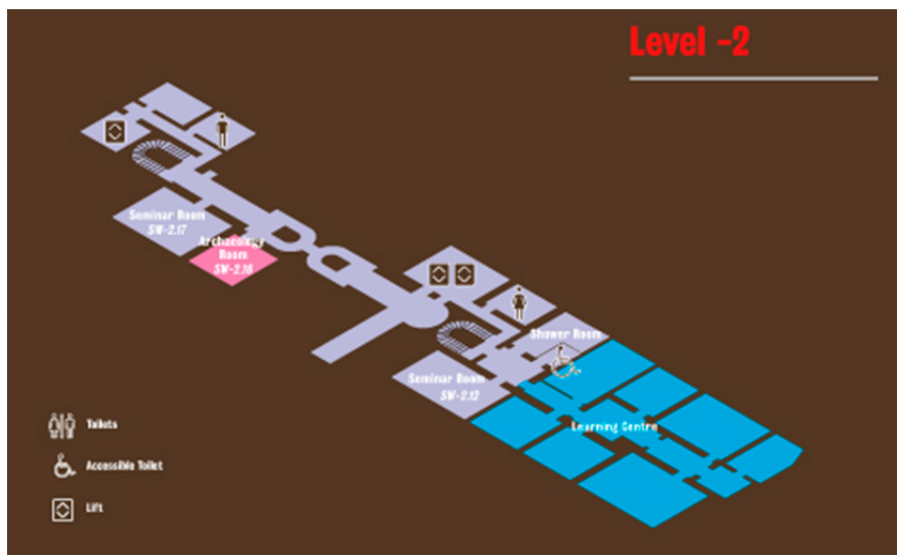
King's College London キングスカレッジロンドン

配置図 (Strand Campus)



<http://www.kcl.ac.uk/campuslife/campuses/download/Strand%20detail%20A4%202015-06.pdf> (2016年3月現在閲覧可能)

平面図 (Somerset House East Wing Learning Centre)



<http://www.kingsvenues.com/conferences-meetings/somerset-house/fp.aspx> (2016年3月現在閲覧可能)

整備概要

施設名称	Somerset House East Wing Learning Centre
設置年度	2015年12月開設
整備手法	改修
階数	地下2階 (地上4階地下2階)

整備内容

・整備のポイント

整備の基本コンセプト

- ・近隣の歴史的建物に内部の設備改修を加え新たなスタイルの学修スペース
- ・柔軟な Learning Landscape
(ベッドルームやカフェ、教会でも学修は行えるという考え方) に基づく整備
- ・ホワイトボードの壁、可動式の什器・システム操作台、ワイヤレスプロジェクタ

整備内容

- ・6つの異なるデザインのワークスペースで構成し、それぞれにストレージを充実
- ・従来の壁や窓枠を残し、自然光が入るように整備
- ・廊下にロッカーとPCクラスターを設置
- ・レセプション等で利用できる「考古学の部屋」という改修前の遺構を保存したスペースを整備

計画・設計プロセス

・整備の背景

2009年に大学敷地に隣接するサマセットハウスの East Wing を獲得し、副学長を中心に改修計画プロジェクトに取り組んできた。館内はロースクール、文化施設や視聴覚設備を充実させた多目的スペースなどに利用されている。

KCL では、今後学生の大幅な増員を計画しており、中心的なキャンパスである Strand Campus は周辺の建物を活用したエリア全体の再開発を計画している。

・整備の評価

今後は、学外への貸し出しも含めて想定しているが、2015年12月に整備されたばかりで、調査時（2016年1月）は試用期間中であった。

・今後の展望

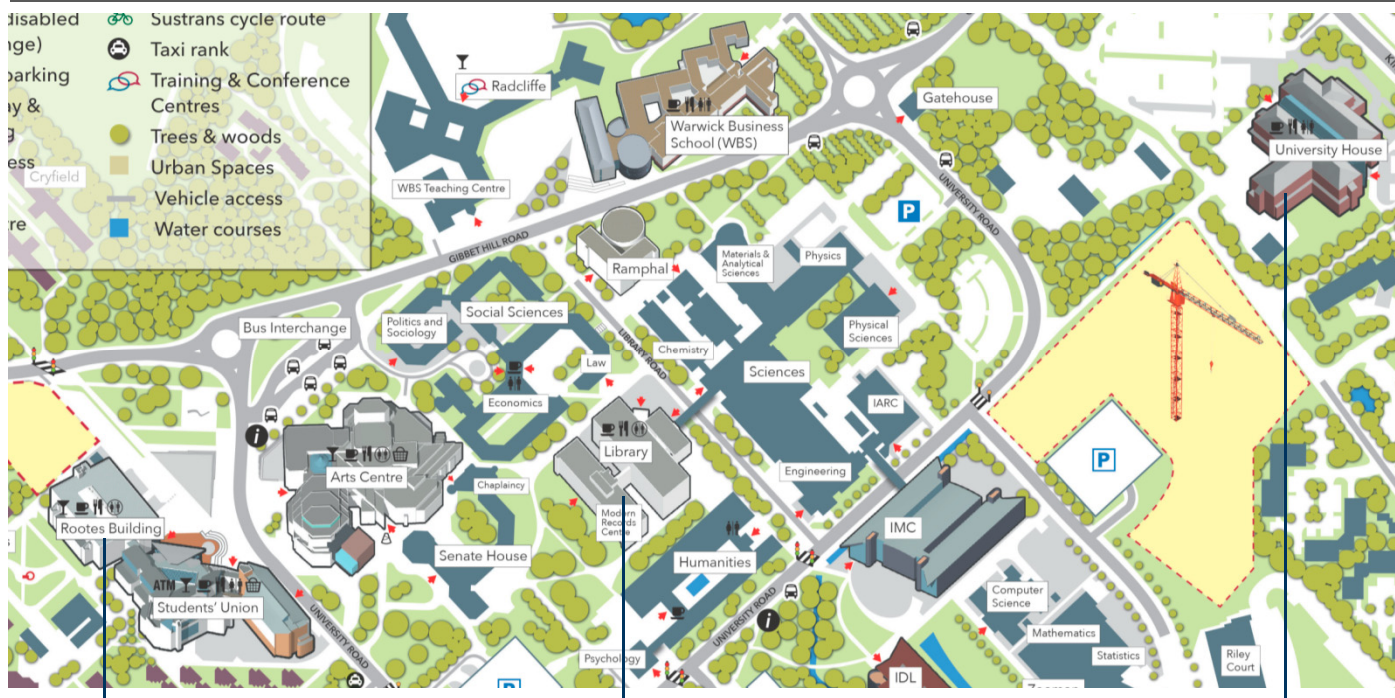
- ・学修スペースについては、講義エリアの改修を進めており、階段教室の有効活用を模索している。
- ・新たな学修スペースの計画には、関係者、特に教員から理解を得ることを重視しており、授業の方法をアップデートするためのプロジェクトや、学外から第三者的な立場で授業評価を行うような取組を進めていく。

その他の見学施設

Anatomy museum

2009年に改修され、学内中心部の6階部分1室をフルデジタル化し、芸術、研究、教授活動に適した創造的でフレキシブルなスペースに改修。施設にはパフォーマンスフロアや埋め込み型スクリーンと音声環境、思考・計画・創造活動のサポートソフトと電子ビーム設備を伴った白壁のストーリーボードが備わっている。隣接する基本的なケータリング施設のサービスも利用できる。

配置図 (Central Campus)



Learning Grid Routes

Teaching Grid/
Wolfson Research Exchange

Learning Grid

<http://www2.warwick.ac.uk/about/visiting/maps/campusmap/CampusMap-onlineCrops-CENTRAL.pdf> (2016年3月現在閲覧可能)

整備概要

施設名称	Learning Grid (University House)
設置年度	2005年
整備手法	改修
階数	University House 1階、2階
延床面積	1,350 m ²
施設名称	Teaching Grid
設置年度	2008年
整備手法	改修
階数	メインライブラリー3階
施設名称	Wolfson Research Exchange
設置年度	2008年
整備手法	改修
階数	メインライブラリー4階
施設名称	Learning Grid Routes
設置年度	2013年
整備手法	新築
階数	Rootes Building 1階

整備内容

・整備のポイント

整備の基本コンセプト

- ・グループ学修に適した学修スペース整備
- ・教員、院生、学生それぞれの活動スペースを個別に整備

Learning Grid

- ・ディスカッションやブレインストーミング、プレゼンテーション用スペース
- ・24時間 365日オープン
- ・2室の6～7人で利用できるグループ学修室
- ・1室の16人まで利用できるグループ学修室

Learning Grid Routes

- ・学生の要望を受けて300席の個人学修スペースを整備
- ・学生寮・レストラン・スーパーマーケットなどの生活エリアに近い配置

Teaching Grid

- ・ワークショップ・作業スペース、コミュニケーションエリアで構成
- ・コミュニケーションエリアには学修環境や教授法に関する書籍を設置
- ・教材製作や授業に活用できる機器が集約
- ・「コミュニティーエンゲージメントチーム」による発展的なテクノロジーサポート

Wolfson Research Exchange

- ・分野を超えた研究交流のための施設
- ・電源供給ができるロッカー
- ・Creative Wall と呼ばれるアイデアを共有する壁にはポスターの掲示やホワイトボード、プロジェクトの投影も可能
- ・個人作業用のPCクラスターが充実

・運営・管理

Learning Grid は、学生アドバイザーを活用しており、希望する学生が多い。動画制作のためのマルチメディア機器は、スタッフが管理し、利用をサポートしている。

教育研究活動を活性化するためには、学修スペース整備による場所の提供と同時に教員、院生、学生のコミュニティーを活性化するための取組を進めることが必要と考えており、それぞれのコミュニティーで交流イベントを企画したり、ワークショップを開催したりしている。

計画・設計プロセス

・整備の背景

創造性の育成を目標に、フレキシブルな学修スペース整備の取組を進める。学生のためのグループ学修スペースの整備をイングランドでは先駆けて行った。教員や院生についても能力開発や、研究活動を促す交流スペースの重要性を早くから認識し、2008年に図書館改修整備に伴い、教員、研究者（院生）向けスペースも整備した。400を超える企業との産学連携等、先進的な教育・研究に取り組み、キャンパス内には企業との共同施設も数多くある。

・整備の評価

利用頻度の高さや、スタッフへ寄せられる信頼の高さから整備の効果を実感している。

・今後の展望

- ・Social learning を推進するための全学共通講義・学修棟を整備している。
- ・教学組織との連携を強めて、授業改善や学修サポートなどの支援のさらなる充実を目指す。

・ウォリック大学図書館ヒアリング回答

1) アクティブラーニングの環境整備推進について

ユニバーシティハウスのラーニング・グリッドは10年以上前にアクティブラーニングの醸成を目的として設置され、プロジェクト作業や個人課題のための個別学修、グループ学修双方に対応している。特に、授業でグループ向けのプロジェクト課題を課す傾向があらわれつつあったことに合せて、グループでのアクティブラーニングを推進するスペースの必要に応じて計画を行った。

ユニバーシティハウスのラーニング・グリッドには4～8名利用のプラズマスクリーン、またはスマートボードを備えた28以上のグループワークエリアが設置されている。また学生がグループ学修や授業で行うプレゼンテーションの練習をするための3つのプレゼンテーションルームもある。

2) ラーニング commons のような学修スペース、施設に関する大学の基本方針

ラーニング・グリッドの基本ポリシーは、個人またはグループ学修のためにフレキシブルでインフォーマルなスペースを提供することにある。飲み物、冷たい食べ物等は許可しており、リラックスした環境を必要とする学生のために、柔らかな座り心地のソファを含む幅広い種類の什器を配置している。ユニバーシティハウスのラーニング・グリッドは週7日24時間オープンしており、学生はいつでもそこで勉強することができる。

3) 施設、平面計画の主な狙いは何か

・教育的観点から

ラーニング・グリッドの狙いは、個々の異なる要求に応じた学修スペースを組み合わせ（但し一人で静かに学修するというものは除く）、グループ学修を推進することにある。最新のラーニング・グリッドでは、協調学修のスペースと同様の学生の個別学修スペースに対する高い要求を受けて、個別学修スペースを300席整備した。自分のPCを持ち込む学生が多いため、固定のPCは30台のみの整備である。

メインライブラリーにあるティーチング・グリッドは、教員が授業で学生の学修効果を高めるために新しいことに挑戦することを支援するスペースである。フレキシブルなスペースになっている。利用者の声にこのようなものがある「フレキシブルなスペース＝フレキシブルな思考と創造性をもたらすもの」

・学内の教育哲学等で施設ポリシーと関連するもの

本学は創造性とイノベーションを推進しており、大学の教育目標の一つは、これまで達成されてこなかった技術刷新により教育の可能性を広げることにある。そうすることで、学校や大学における明らかになりつつある要求や進化し続ける学修モデルに迅速に対応していくことが可能となる。

本学では全ての教育課程で柔軟性と選択肢を増やしていく予定であり、自由選択の範囲を広げ経験やプロジェクトを増やしていくことを主要な授業で進めている。

就学期間に対する理念を反映し、学生には創造的であり、知識を追い求め、新たな関心に向けて探究を続けるような分析的、批判的姿勢を奨励している。

そのため、ユニバーシティハウスのラーニング・グリッドにはスタジオを追加整備し、学生が映像制作と編集ができるようにした。本学では学科共通の授業において様々な評価方法を進めており、特に学際的なモジュール授業では、学生がビデオやビデオジャーナルをエッセイの代わりに選択することが認められている。スタジオには7台のiMacやビデオ編集に適したカメラ、ラップトップ、iPad等がある。

さらに、ティーチング・グリッドは、授業における卓越性という本学の目標に資する施設となっている。ティーチング・グリッドは、新たなことに挑戦しようとしている本学における教員の誰に対しても安全な場所を提供するために設立され、そこではインフォーマルな形で、新たな創造や実験に適した豊富な技術が提供されている。ティーチング・グリッドは図書館組織で運営されているが、学修開発センターという教授開発とイノベーション・卓越性の開発プログラムを進めるスペースの推進を管轄する部署と密に連携を取りながら業務に当たっている。

ティーチング・グリッドの半分は、同僚間の助け合いを進めるスペースで、授業実践に取り組むためのコミュニティを形成し、授業に関する会合を日常的に開催する窓口として運営している。ここでは、20分の授業刷新についての会話と20分の質疑応答で構成するランチミーティングが行われている。

教育推進技術に関するフォーラムとモジュールユーザーグループの会合も開かれており、授業へのテクノロジーや技術刷新についての基本的事項について初心者にも基本的な内容を紐解き、参加メンバーで議論ができるようにしている。全学で行う「Teaching and Learning Showcase（授業および学修の先行取組紹介）」という学修会や、学部ごとの同様な催しにも利用される。

4) 施設企画と管理について

ラーニング・グリッドとティーチング・グリッドの設備とテクノロジーについては、変化に十分対応し続け、特定の新しい要素を取り入れることも含めて定期的に更新するための経費をかけている。常に他大学の学修スペースと文献や視察を通して自学のスペースと比較し、遅れをとらないようにしている。

5) 施設計画の要

(平面計画、ICT設備、コンテンツ、人的サポート等)

図書館は学内の授業、学修、研究活動を支援する組織である(図書館が支えるべきスペースについては大学の経営戦略上にその指標が示されている) 図書館は、上述したように様々な学修環境、サービスに対応した幅広い施設を提供している。全学のコミュニティを支援するものから、ティーチング・グリッドのように学生、教員等特定のコミュニティを対象とするものもある。今日の施設は何年もかけて整備されてきたものであり、施設における取組や運営の在り方は大学それ自体と同時に開発され、承認も時間をかけて進んできたと言える。それぞれの施設については上記を参照のこと。

6) 学修スペース設置前後で比較可能な学修効果のデータ

エントランスと座席利用率については調査している。利用状況を把握することで、管理効率の向上を目指している。それに加えて、学生と教員双方のコミュニティ

からフィードバックを受けており、サービスや施設開発の参考にしている。

7) 施設利用についての評価

全ての図書館施設は全学期を通して利用ニーズが高く、よく利用されている。

配置図



Main Library

The Alan Gilbert Learning Commons

<http://documents.manchester.ac.uk/display.aspx?DocID=6507> (2016年3月現在閲覧可能)

整備概要

施設名称	The Alan Gilbert Learning Commons
設置年度	2012年10月
整備手法	改修、増築
階数	4階建
整備費用	2,400万ポンド
のべ床面積	5,500㎡
設計	Sheppard Robson

整備内容

・整備のポイント

整備の基本コンセプト

- ・10年後まで見越した最先端ラーニングセンター
- ・完全ペーパーレスの図書館整備
- ・学生の声を全面的に採用した学生のためのスペース
- ・メインライブラリーと近接整備
- ・CO2 排出量を最小限にしたり、熱回収システム、太陽熱システム等、環境に配慮した建築

整備内容

- ・30 部屋のグループ学修室（2～12 席）
- ・学修室には、ホワイトボードやメディア画面に接続した PC を設置
- ・カフェを含めた全館 WiFi アクセスが可能で、どこでもノート PC の画面に接続することができる。
- ・スペースの予約時間は平日の朝 9 時から夜の 9 時までと土日の 17 時までだが、部屋は建物が空いている時間（基本的に 24 時間）は開放
- ・1 F から吹き抜け空間あり、明るく開放的なイメージ
- ・マルチメディアと柔軟な”break out”ワークスペース
- ・全部で 400 台以上の固定 PC 席
- ・プリントステーション（スキャナ、カラープリンタ）
- ・ノート PC、タブレット、スマートフォンの充電コーナー
- ・カフェ、自販機

・運営・管理

図書館サービスと ICT サービスを提供。学生スタッフも運営に参画している。
整備後も仮眠ゾーンなどの試用等で学生からの評価を収集している。

計画・設計プロセス

・整備の背景

メインライブラリーや管理本部等がある全学共通エリアに整備。既存の 1960 年台の食堂を一部改修し建設（40%改修、60%新築）。メインライブラリーと広場を挟んで向かい合う位置にあり、学生は双方を使い分けている。検討プロセスにこれまでにないほど学生が参画し、様々な学生意見が整備に採用された。

・今後の展望

キャンパス統合に向けて、学修スペースも再編を計画しており、その計画プロセスでも、学生の意見を反映するような体制や仕組みを予定している。

その他の見学施設

Main Library

メインライブラリーは 1981 年に増築されて、現在の建物になっている。蔵書は全学部教科に対応。2009 年に 1 階のブルーフロアが改修されたことを除き、その後改修工事はされていない。アラン・ギルバート・ラーニングコモンズに比べて、小規模な空間に分かれたスペースとなっており、グループ学修スペースはよりにぎやかな雰囲気で見学されている（本学職員談）。

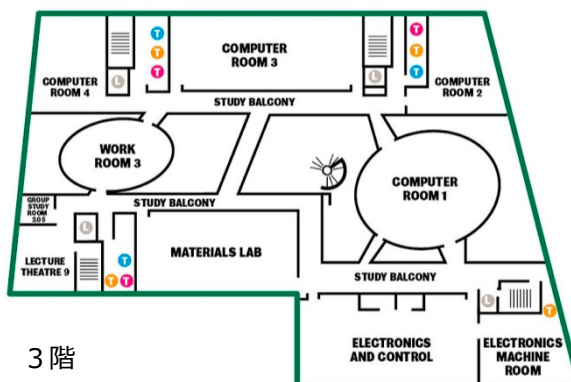
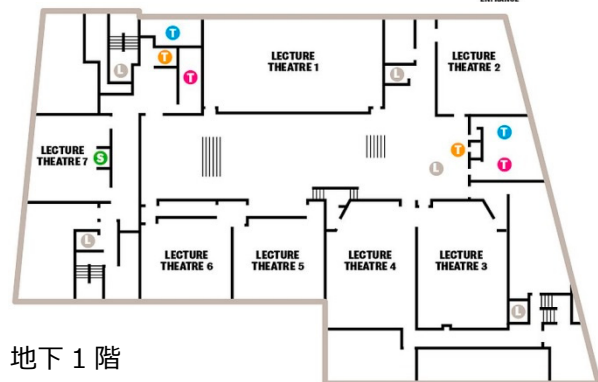
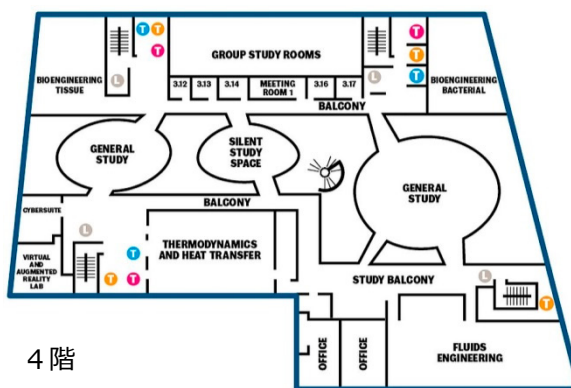
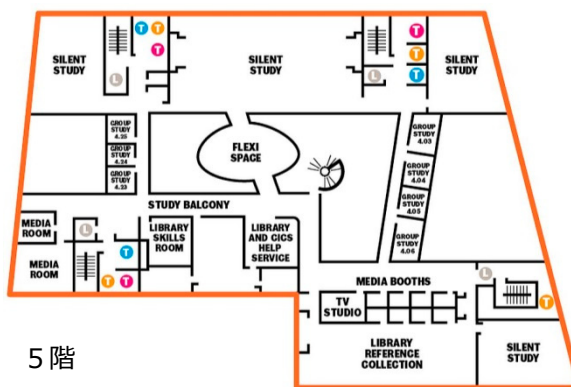
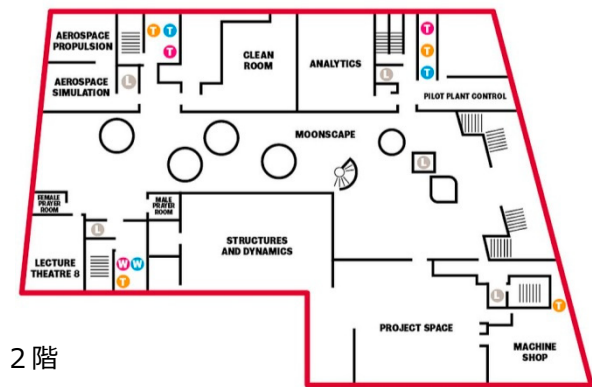
2017 年から改修工事が 3500 万ボンドの予算で計画されている。改修は、キャンパス統合整備に伴い、全学共通エリアにある学修スペース再編計画の一部。内部環境と、共有スペース、長寿命化に焦点を当てた整備が行われる予定。Alan Gilbert Learning Commonsと同様学生意見を収集し、学生の学修スタイルに対応できるような整備計画を行う。

- ・5 階建てで、各階を赤、青、緑、黄色、紫の 5 色でゾーニング
- ・2000 席以上の学修スペース（グループまたは個人用）
- ・カフェを併設し、館内はカフェを除き 1 階ラウンジのみ食事可能、その他エリアは蓋付き容器の飲み物のみ許可
- ・館内は無線 LAN 完備



http://www.sheffield.ac.uk/polopoly_fs/1.552550!/file/campus-map-a-z-feb2016.pdf (2016年3月現在閲覧可能)

平面図 (The Diamond)



<https://www.sheffield.ac.uk/diamond/floor-plans> (2016年3月現在閲覧可能)

整備内容

・整備のポイント

整備の基本コンセプト

- ・The Diamond は、国内のみならず世界で最高の工学教育の場を目指し整備
- ・1～2年の学部生に必要な基礎的な実践スキルと技術的コンピテンシーを習得させ、3～4学年における学修や研究を行うための基礎となり、さらには卒業時に産業界が優秀な卒業生に求める学術的・技術的能力を育てることを目的とする
- ・この施設における学際的教育・研究の取組を地域や世界に向けて発信するシヨケース

実践の習得

それぞれの専門の実験室では、その学科内で技術設備があるが、The Diamond ではそれに加え学問領域を超えて実践的で問題解決型の活動を展開。

技術開発

学生たちは、実践的かつ最先端の問題解決技術、実生活で企業が使用している工業規格の設備環境を用いた実習を行う。卒業するころには企業が必要とする技術に通じている。

- ・9つのレクチャーシアター（400席×1、240人×2、160席×4、80席×2）
- ・3つの多目的教室
- ・6～40名対応の学修室
- ・週7日24時間オープンインフォメーションコモンズ
- ・19の工学実習スペース・研究室
- ・機械室、プロジェクトスペース
- ・クリーンルーム
- ・バーチャルリアリティ、拡張現実実験室

整備概要

施設名称	The Diamond
設置年度	2015年9月
整備手法	新築
階数	地下1階地上5階
整備費用	8,100万ポンド

計画・設計プロセス

・整備の背景

工学部の大幅増員により、近年工学部キャンパスが狭隘化していた。また、学部生のための実習スペース不足が課題となっていた。加えて、産学連携による学際研究を全学的に推進しており、学際的研究能力を育成する施設整備がキャンパスマスタープランにおいて計画されている。ザ・ダイヤモンドは、上記課題の解決と、学際的な教育拠点の創出を目的として、工学部キャンパスと全学共通エリアの境界上に、工学部の学部生向け教育施設と、全学共通の学修スペースの複合施設として整備された。

シェフィールド大学では学修スペースを9つに類型化している。

1. オープンプラン（仕切りがない）の個別学修デスク
2. サイレント・スペースの個別学修デスク
3. オープンプランのグループワーク・テーブル
4. オープンプランのセミクローズ型グループワーク・ポッド
5. ゆったりとくつろげる座席
6. グループ学修室
7. 可動式什器を備えたフレキシブル・スペース
8. 教室
9. サイバーカフェ

その他の見学施設

Information Commons

2007年に設置された7階建て延床面積7800㎡、1350席の学修スペース。ICTと印刷資料の融合をテーマにしており、約11万冊の蔵書を誇る。殆どの施設・設備は24時間いつでも利用でき、建物のどこからでも無線LANが利用可能。

- ・デスクトップ500台
- ・学生がノートPCを電源に接続出来るデスク
- ・リラックスしながら学修出来るソファエリア、静かに学修出来る部屋
- ・1-4階にはグループ学修デスクがあり、予約可能
- ・1-6階には15のグループ学修室があり、2人から10人で利用可能
- ・グループ学修室の壁はホワイトボードペイント
- ・ティーチングファシリティではタッチスクリーンディスプレイや対話式モニターおよびプラズマデータ投影スクリーンを整備（タッチスクリーンディスプレイで任意の生徒のPC画面を壁に取り付けられたプラズマディスプレイに投影）
- ・教室1 40席 PC 20台 生徒用PC画面をメインのプロジェクタに投影可能、DVDプレイヤー完備
- ・教室2 36席 ノートPCレンタル可能
- ・PC教室3 32席 PC 32台 プラズマスクリーンあり
- ・PC教室4 24席 PC 24台 プラズマスクリーンあり

Student Union

シェフィールド大学は2014-15年の学生満足度調査で1位を獲得している。学生サービスに大変力を入れており、学修・研究、生活（住居、アルバイト、サークル活動）、金銭面などあらゆる相談を受け付ける窓口を Student Union 内に設置している。特に留学生に向けては、様々な手続き処理の支援に加え、大学生活になじむために、コミュニティーへの紹介等も行う。Student Union の建物には、学生相談窓口、各種事務窓口、WEB デザイン事務所、食堂、ミーティングブース、交流スペース等を設置。

有識者会議

本調査では、教育の質的転換を図る多様な学修スペースの整備に関して、大学の学修スペースやキャンパスの整備等における専門的な観点から指導・助言、意見交換を得られるよう、有識者会議を設置した。

有識者会議委員（五十音順、敬称略、役職は平成28年3月現在）

主査：上野 武

千葉大学

キャンパス整備企画室 室長

大学院工学研究科 教授

委員：斎尾 直子

東京工業大学

教育施設環境研究センター/大学院建築学専攻 准教授

安森 亮雄

宇都宮大学

大学院工学研究科 准教授

有識者会議は、以下のスケジュールにより、3回実施した。

回数	開催時期	議題
第1回	平成27年11月27日	調査内容の確認 調査項目、調査対象校の検討 事例集の全体構成検討
第2回	平成28年2月17日	視察状況及び、調査結果（国内・英国）の報告 事例集各章の構成、内容検討
第3回	平成28年3月4日	事例集の全体構成確認 事例集各章の内容、まとめ方について検討

※本資料は、平成 27 年度に文部科学省が株式会社内田洋行に委託した「教育の質的転換を図る多様な学修スペースの整備に関する調査」において作成した事例集です。